

令和 4 年度 害虫学分野 退職者 「研究の歩み」と「主な研究業績」

津田勝男

(農業生産科学科 応用植物科学コース)

研究の歩み

私は 1980 年に鹿児島大学農学部農学科害虫学教室を卒業し、九州大学大学院生物的防除研究施設天敵微生物部門（生防研微生物）に進学しました。鹿児島大学時代の卒業論文ではカイガラムシの寄生蜂に関する研究を行いましたが、当時は分類学者を目指しておりました。研究の過程でカイガラムシにカビ（糸状菌）が寄生して死亡しているのを観察して天敵微生物に興味を持ち、大学院は天敵微生物学の総本山とも言うべき生防研微生物に進学しました。私の本格的な研究生活はこの生防研微生物から始まりました。

生防研微生物での私の研究テーマは昆虫ウイルスで、核多角体病ウイルス（nucleopolyhedrosis virus; NPV）の感染・増殖過程を昆虫培養細胞を使って明らかにするというものでした。当時は昆虫培養細胞を扱っている研究者は国内では数人程度で、参考文献も英文しかなく苦勞しましたが、得られる成果のほとんどが日本初ということもあり、やりがいがありました。NPV と昆虫培養細胞というシンプルな実験系で研究を進め、NPV が細胞に感染するかしないかという宿主特異性は、ウイルスが細胞に吸着する過程だけではなく、細胞内でウイルス DNA が増殖する過程でも示されることを明らかにしました。

1985 年に大学院博士課程を修了して 1986 年に福岡県に就職しましたが、配属先は福岡県農業総合試験場園芸研究所果樹部常緑果樹研究室でした。ここでミカンやビワなどの常緑果樹の栽培技術に関する研究を行うことになりました。果樹は鹿児島大学時代の農場実習でしか扱ったことしかありません。まったくの素人でしたが、せん定や接ぎ木などの技術は一通り身に付けました。常緑果樹研究室では「ハウスミカンの着花予測」を任せられ、精力的に研究しました。温室で栽培されるハウスミカンは、冬季に暖房することによって生育を早めて 6~7 月頃に収穫するというもので、高値で取引されます。ただし、ミカンは花芽が休眠するため、花芽の休眠が打破されていないまま暖房すると出芽するのは葉芽だけになってしまいます。花芽の休眠が打破されているかを見極めるために、枝の成分を分析するとともに水挿しして花芽が出るかを確認します。福岡県内各地の県の普及員さんや農協の営農指導員さんがミカンの枝（結果母枝）を持ち込み、その結果を基に現地ハウスの暖房開始時期を決める訳で、現場は私の判定を心待ちにしています。現場と直結した研究は相当なプレッシャーがありましたが、たいへん充実していました。

1989 年に生産環境研究所へ異動し、新しく設置された生物資源部微生物利用研究室に配属されま

した。ここでは未利用微生物の有効利用を研究することになり、「エノキ茸培養床の堆肥化」や「アゾーラによる水稻の雑草抑制効果や肥料効果」に取り組むとともに天敵微生物の研究を行うことが出来ました。難防除害虫コナガに対する天敵微生物を探索し、天敵糸状菌や天敵ウイルスを発見しました。ところが、1990年に福岡県では果樹カメムシが大発生し、試験場ではプロジェクトチームを組んでカメムシの防除対策を研究することになり、カメムシの天敵微生物を探索し天敵糸状菌数株を分離しました。福岡県は特異的に果樹カメムシの発生が多く、1992年には国の指定試験事業として「果樹カメムシ研究室」が設置され、そちらへ異動し果樹カメムシの研究を続けました。チャバネアオカメムシの飼育個体群にウイルス病が疑われる個体が現れましたが、当時はカメムシに感染するウイルスは未発見で「世界初か？」と喜びましたが、南アフリカからの発見に先を越されました。ところが、その後このウイルス（チャバネアオカメムシ腸管ウイルス）はメチオニン以外のアミノ酸から外被タンパク質を合成していることが明らかになり、分子生物学分野で言われていた「タンパク質の合成開始は常にメチオニンから始まる」という常識をくつがえすという成果に繋がりました。ちなみに私はこの常識さえ承知しておりませんでした。

その後、試験場内で4回目の異動で企画経営部企画科配属となり研究から離れましたが、縁あって1997年8月に母校である鹿児島大学農学部害虫学研究室の助教授に着任しました。着任当初は、主に害虫類の大量飼育に取り組み、コブノメイガやイグサシムシガの人工飼料を利用した大量飼育体系を確立しました。また、アリモドキゾウムシの人工飼料の開発にも取り組みましたが、アリモドキゾウムシは植物防疫法により発生地域からの持ち込みが禁止されている特殊病害虫であるため、十分な研究が出来ないまま中途半端な状態で終わってしまいました。その後も害虫を大量飼育する研究は続き、茶害虫のチャノホソガの人工飼料を開発しました。最近では、ゴマダラカミキリ類の累代飼育に取り組んでいます。ゴマダラカミキリ類には鹿児島県土に分布しているゴマダラカミキリ（*Anoplophora malasiaca*；以下ホンゴマダラ）と奄美大島に分布しているオオシマゴマダラカミキリ（*Anoplophora oshimana*；以下オオシマゴマダラ）が分布していますが、喜界島では両者間の交雑が疑われていました。交雑個体がどのような特徴を有するのかを検証するために先ず両者の累代飼育を試みましたが、オオシマゴマダラの累代飼育は失敗続きでした。母虫からの採卵から幼虫の孵化、人工飼料による幼虫の飼育までは順調ですが、蛹化してくれませんでした。日長条件や飼育温度などを調整した結果、飼育温度を夏場の高温条件に上げることで、7年目でやっと蛹化個体を得ることに成功しました。両者の累代飼育個体を交雑させた子の特徴は喜界島で猛威を振るっている個体群とそっくりで、DNA解析の結果でも喜界島のゴマダラカミキリは両者が交雑したものであることを明らかにしました。

一方、害虫防除に関する研究では、天敵糸状菌製剤バイオリサについて、福岡県職員時代は施用法の開発と製剤化に関わりましたが、前述した喜界島では島中全部のミカンにバイオリサを施用するという事業に参加し、一定の成果を上げることが出来ました。このように現場と直接に関わるような研究には特に積極的に取り組んできました。

主な研究業績一覧（学術論文、著書、特許なども含む）

【学術論文】

- Tsuda, K., Mizuki, E., Kawarabara, T., Aizawa, K. (1984). Replication of *Xestia c-nigrum* (Lepidoptera: Noctuidae) nuclear polyhedrosis virus in continuous cell cultures. *Applied Entomology and Zoology* 19, 293–298.
- 吉田守, 大庭義材, 草野成夫, 津田勝男, 栗山隆明 (1987). カンキツの高接更新技術の改善に関する研究（第5報）高接後の根群変化と高接後2年目の結実が根群に及ぼす影響. 福岡県農業総合試験場研究報告 B-6, 1–6.
- 大庭義材, 津田勝男, 清水博之, 平野稔彦, 草野成夫, 吉田守 (1988). 冬季低温によるナツダイダイ果実の凍結と苦味成分の変化. 福岡県農業総合試験場研究報告 B-7, 1–7.
- 草野成夫, 大庭義材, 津田勝男, 吉田守, 平野稔彦, 清水博之 (1988). 加工用原料としてのネーブルオレンジの果実品質と管理技術. 福岡県農業総合試験場研究報告 B-7, 7–12.
- Tsuda, K., Mizuki, E., Kawarabara, T., Aizawa, K. (1988). Comparative neutralization of nuclear polyhedrosis viruses infectious to the tobacco cutworm, *Spodoptera litura* (Lepidoptera: Noctuidae), in a cell line of *Spodoptera frugiperda*. *Journal of Invertebrate Pathology* 52, 248–252.
- 津田勝男, 大庭義材, 松本和紀, 草野成夫 (1988). 中晩生カンキツ‘スイートスプリング’の貯蔵方法. 福岡県農業総合試験場研究報告 B-8, 49–52.
- 草野成夫, 大庭義材, 津田勝男, 下大迫三徳 (1988). カンキツの側枝高接ぎ法による早期樹勢回復技術. 福岡県農業総合試験場研究報告 B-8, 9–14.
- 大庭義材, 津田勝男, 松本和紀 (1989). カンキツにおける組織・器官の成熟老化に伴う体内成分の動態（第1報）カンキツ種子の発芽に伴う子葉内成分の動態. 福岡県農業総合試験場研究報告 B-9, 53–56.
- 大庭義材, 松本和紀, 矢羽田二郎, 津田勝男, 草野成夫 (1990). 極早生温州ミカンにおける樹勢維持と高品質果実生産のための結実管理法. 福岡県農業総合試験場研究報告 B-10, 51–56.
- 矢羽田二郎, 大庭義材, 松本和紀, 津田勝男 (1990). 温州ミカンの早期加温栽培に関する研究（第1報）休眠・花芽分化に及ぼす低温の影響. 福岡県農業総合試験場研究報告 B-10, 57–60.
- 松本和紀, 大庭義材, 矢羽田二郎, 津田勝男 (1990). ビワ果実の寒害対策に関する研究（第1報）ビワ果実の寒害の実態並びに被害果実の植物生育調節剤処理による肥大促進. 福岡県農業総合試験場研究報告 B-10, 61–64.
- 津田勝男, 水城英一, 河原畑勇, 鮎沢啓夫 (1990). 昆虫培養細胞における核多角体病ウイルスの種特異性に関する研究 I. Nonoccluded virus の細胞への吸着と感染の成立. 日本応用動物昆虫学会誌 34, 297–302.
- 津田勝男, 水城英一, 河原畑勇, 鮎沢啓夫 (1990). 昆虫培養細胞における核多角体病ウイルスの種

特異性に関する研究 II. トランスフェクションによるウイルス DNA の感染. 日本応用動物昆虫学会誌 34, 303–308.

- 津田勝男, 水城英一, 河原畑勇, 鮎沢啓夫 (1991). 昆虫培養細胞における核多角体病ウイルスの種特異性に関する研究 III. 核多角体病ウイルスの産生する 2 種類の感染性粒子, nonoccluded virus および occluded virus の交差中和試験による血清学的比較. 日本応用動物昆虫学会誌 35, 31–37.
- 津田勝男, 三井寿一, 庄籠徹也 (1991). コナガに対する天敵ウイルスの利用技術 (第 1 報) コナガ核多角体病ウイルスの代替宿主による増殖. 福岡県農業総合試験場研究報告 B-11, 43–46.
- 松本和紀, 大庭義材, 矢羽田第二郎, 津田勝男 (1991). 温州ミカンのフィルムマルチ栽培に関する研究 (第 1 報) 温州ミカンの品質に及ぼす土壌水分制御の影響. 福岡県農業総合試験場研究報告 B-11, 73–76.
- 矢羽田第二郎, 大庭義材, 松本和紀, 津田勝男 (1991). 温州ミカンの早期加温栽培に関する研究 (第 2 報) 発芽・開花に及ぼす 6-ベンジルアミノプリン (BA) の影響. 福岡県農業総合試験場研究報告 B-11, 77–80.
- 庄籠徹也, 吉岡哲也, 津田勝男, 三井寿一 (1993). エノキダケ培養床残渣の堆肥化. 福岡県農業総合試験場研究報告 A-13, 49–52.
- Hara, K., Funakoshi, M., Tsuda, K., Kawarabata, T. (1993). New *Spodoptera exigua* cell lines susceptible to *Spodoptera exigua* nuclear polyhedrosis virus. *In Vitro Cellular & Developmental Biology*, 29A, 904–907.
- Hara, K., Funakoshi, M., Tsuda, K., Kawarabata, T. (1994). Susceptibility of lepidopteran cell line to a *Spodoptera exigua* (Lepidoptera: Noctuidae) nuclear polyhedrosis virus. *Applied Entomology and Zoology* 29, 395–402.
- Hara, K., Funakoshi, M., Tsuda, K., Kawarabata, T. (1995). Plaque assay for *Spodoptera exigua* and *Autographa californica* nuclear polyhedrosis viruses in a newly established cell line of the beet armyworm, *Spodoptera exigua*. *Acta Virologica* 38, 291–294.
- 津田勝男, 山中正博 (1995). *Beauveria brongniartii* に感染したキボシカミキリ雌成虫の産卵能力. 九州病害虫研究会報 41, 114–116.
- Sugie, H., Yoshida, M., Kawasaki, K., Noguchi, H., Moriya, S., Takagi, K., Fukuda, H., Fujiie, A., Yamanaka, M., Ohira, Y., Tsutsumi, T., Tsuda, K., Fukumoto, K., Yamashita, M., Suzuki, H. (1996). Identification of the aggregation pheromone of the Brown-winged green bug, *Plautia stali* Scott (Heteroptera: Pentatomidae). *Applied Entomology and Zoology* 31, 427–431.
- 津田勝男, 吉岡哲也, 堤隆文, 山中正博, 河原畑勇 (1996). 数種昆虫病原糸状菌のチャバネアオカメムシに対する病原性. 日本応用動物昆虫学会誌 40, 318–321.
- 津田勝男, 中島信彦, 山中正博, 大平喜男, 河原畑勇 (1997). チャバネアオカメムシから分離されたウイルス様病原体の性状. 日本応用動物昆虫学会誌 41, 39–44.
- 横田仁子, 安永智佐, 河原畑勇, 早坂昭二, 津田勝男 (1997). 鱗翅目昆虫病原性微胞子虫 *Nosema*

mesnili NM-HC-A8801 株の *Antheraea eucalypti* 細胞系への接種と増殖. 日本応用動物昆虫学会誌 41, 89–94.

- 津田勝男, 吉岡哲也, 堤隆文, 山中正博, 河原畑勇 (1997). カメムシ類から分離した *Beauveria bassiana* のチャバネアオカメムシに対する病原力の検定と検定用飼育容器の開発. 日本応用動物昆虫学会誌 41, 95–98.
- 津田勝男, 堤隆文, 山中正博 (1997). チャバネアオカメムシにおける昆虫病原糸状菌 *Beauveria bassiana* の感染部位と成虫間の伝播. 日本応用動物昆虫学会誌 41, 99–101.
- 横田仁子, 安永智佐, 河原畑勇, 早坂昭二, 津田勝男 (1997). 鱗翅目昆虫培養細胞系における微孢子虫 *Nosema mesnili* NM-HC-A8801 株の感染・増殖および持続感染系の樹立. 日本応用動物昆虫学会誌 41, 147–152.
- Nakashima, N., Sasaki, J., Tsuda, K., Yasunaga, C., Noda, H. (1998). Properties of a new picorna-like virus of the brown-winged green bug, *Plautia stali*. *Journal of Invertebrate Pathology* 71, 151–158.
- 村上万知子, 江平いづみ, 津田勝男, 榎下町鉦敏 (1999). スイゼンジンナを加害する害虫の生態学的研究 1. 鹿児島市におけるスイゼンジンナの害虫相とその主要種モンシロモドキの寄主範囲. 鹿児島大学農学部学術報告 49, 1–5.
- 村上万知子, 津田勝男, 榎下町鉦敏 (2000). スイゼンジンナを加害する害虫の生態学的研究 2. 鹿児島県内における害虫相と主要種の発生および被害の消長 (I). 鹿児島大学農学部学術報告 50, 9–39.
- 村上万知子, 津田勝男, 榎下町鉦敏 (2000). スイゼンジンナを加害する害虫の生態学的研究 3. 鹿児島県内における害虫相と主要種の発生および被害の消長 (II). *South Pacific Study* 20, 13–41.
- 大村浩之, 津田勝男, 上和田秀美, 榎下町鉦敏 (2000). 人工飼料によるコブノメイガの飼育. 日本応用動物昆虫学会誌 44, 119–123.
- Ichitani, K., Hikida, M., Kamada, N., Nagayama, H., Onjo, M., Tsuda, K., Tominaga, S. (2003). Genetic diversity of coconut (*Cocos nucifera* L.) in Yap state. *Kagoshima University Research Center for the Pacific Islands Occasional Papers* 39, 45–49.
- Onjo, M., Nakano, K., Tominaga, S., Tsuda, K., Ichitani, K., Park, B.-J. (2003). Agriculture and food supply on Ulithi atoll. *Kagoshima University Research Center for the Pacific Islands Occasional Papers* 39, 51–54.
- Tsuda, K., Watanabe, M., Tominaga, S., Onjo, M., Ichitani, K. (2003). The biogeography of the insect fauna of the Ulithi islands, Micronesia. *Kagoshima University Research Center for the Pacific Islands Occasional Papers* 39, 73–75.
- Tominaga, S., Yamamoto, M., Kohno, R., Park, B.-J., Tsuda, K., Onjo, M., Ichitani, K. (2003). Classification of citrus species on Yap island and Ulithi atoll of the FSM. *Kagoshima University Research Center for the Pacific Islands Occasional Papers* 39, 93–98.

- Tominaga, S., Ichitani, K., Onjo, M., Tsuda, K., Park, B.-J., Nagayama, H., Kamada, N., Kohno, R. (2003). Preliminary report on soil conditions in Yap island and Ulithi atoll of the FSM. Kagoshima University Research Center for the Pacific Islands Occasional Papers 39, 99–105.
- 遅玉成, 坂巻祥孝, 津田勝男, 榎下町鉦敏 (2004). マメノメイガの簡易人工飼料とその人工飼料飼育下における増殖効率. 日本応用動物昆虫学会誌 48, 315–320.
- 遅玉成, 坂巻祥孝, 津田勝男, 榎下町鉦敏 (2005). マメノメイガの産卵と寿命におよぼす温度の影響. 日本応用動物昆虫学会誌 49, 29–32.
- Kakimoto, K., Urano, S., Noda, T., Matsuo, K., Sakamaki, Y., Tsuda, K., Kusigemati, K. (2005). Comparison of the reproductive potential of three *Orius* species, *O. strigicollis*, *O. sauteri*, *O. minutus* (Heteroptera: Anthocoridae), using eggs of the Mediterranean flour moth as a food source. Applied Entomology and Zoology 40, 247–255.
- 津田勝男, 山下紘平, 坂巻祥孝, 榎下町鉦敏, 青木智佐, 飯山和弘, 岡田斉夫, 河原畑勇 (2005). 20年以上水中保存した7種核多角体病ウイルスのハスモンヨトウ *Spodoptera litura* に対する病原性. 日本応用動物昆虫学会誌 49, 119–122.
- 津田勝男, 甲斐絢子, 坂巻祥孝, 神崎保成, 榎下町鉦敏 (2005). 南九州のチャ園から採取したウスコカクモンハマキ *Adoxophyes dubia* およびチャノコカクモンハマキ *Adoxophyes honmai* の顆粒病ウイルス感受性. 日本応用動物昆虫学会誌 49, 129–133.
- 津田勝男, 大村浩之, 坂巻祥孝, 上和田秀美, 榎下町鉦敏 (2005). 人工飼料を用いたコブノメイガの大量飼育体系の開発. 日本応用動物昆虫学会誌 49, 215–221.
- 遅玉成, 坂巻祥孝, 津田勝男, 榎下町鉦敏 (2006). マメノメイガ (*Maruca vitrata*) の発育に関する温度反応. 鹿児島大学農学部学術報告 56, 19–23.
- 遅玉成, 津田勝男, 坂巻祥孝, 榎下町鉦敏 (2006). マメノメイガ細胞質多角体病ウイルスのマメノメイガに対する病原性. 鹿児島大学農学部学術報告 56, 25–30.
- 津田勝男, 東理香, 佐藤史子, 坂巻祥孝, 榎下町鉦敏 (2006). 蛹を利用した核多角体病ウイルスの大量増殖. 鹿児島大学農学部学術報告 56, 31–37.
- 津田勝男, 東中祐枝, 坂巻祥孝, 井上栄明, 上和田秀美, 榎下町鉦敏 (2006). 人工飼料によるナカジロシタバの飼育. 鹿児島大学農学部学術報告 56, 39–44.
- 田野飛, 坂巻祥孝, 津田勝男, 榎下町鉦敏 (2008). マメハモグリバエとトマトハモグリバエの産卵および発育に対する3種寄主植物の適合性. 昆虫 (ニューシリーズ) 11, 135–143.
- 田野飛, 坂巻祥孝, 津田勝男, 榎下町鉦敏 (2008). 鹿児島県薩摩半島南部の野菜・花卉栽培温室内外におけるマメハモグリバエおよびトマトハモグリバエの種構成と寄主植物. 農業生産技術管理学会誌 15, 35–43.
- 田野飛, 坂巻祥孝, 津田勝男, 榎下町鉦敏 (2008). 鹿児島県において野菜・花卉類を加害するナスハモグリバエ, マメハモグリバエおよびトマトハモグリバエの種構成. 九州病害虫研究会報 54, 112–117.

- 馬場央枝, 坂巻祥孝, 津田勝男, 榎下町鉦敏, 柿元一樹 (2008). 天敵昆虫アカメガシワクダアザミウマ *Haplothrips brevitubus* (Karny) の捕食レパトリーおよび鹿児島大学学内圃場における季節消長. 鹿児島大学農学部農場研究報告 30, 1-6.
- Kouassi, L.N., Tsuda, K., Goto, C., Mukawa, S., Sakamaki, Y., Kusigemati, K., Nakamura, M., (2009). Prevalence of latent virus in *Spodoptera litura* (Fabricius) (Lepidoptera: Noctuidae) and its activation by a heterologous virus. *Applied Entomology and Zoology* 44, 95-102.
- 池島香奈美, 坂巻祥孝, 宮城聡子, 大野豪, 福田健, 津田勝男 (2009). 九州・沖縄におけるミツユビナミハダニ *Tetranychus takafujii* Ehara & Ohashi の発生. 九州病害虫研究会報 55, 136-140.
- 池島香奈美, 坂巻祥孝, 津田勝男 (2009). ミツユビナミハダニ *Tetranychus takafujii* Ehara & Ohashi の殺ダニ剤および殺虫剤感受性. 九州病害虫研究会報 55, 141-145.
- 岩本由紀江, 坂巻祥孝, 津田勝男 (2010). チャドクガに対する浸透移行性殺虫剤の株下散布および土壌施用の効果. 鹿児島大学農学部学術報告 60, 7-14.
- 島内円夏, 上和田秀美, 福田健, 津田勝男, 坂巻祥孝, 榎下町鉦敏 (2010). 性フェロモントラップによるハスモンヨトウ雄成虫の捕獲に対する風速の影響. 南太平洋研究 30(2), 13-21.
- Kouassi, L.N., Tsuda K., Goto C., Mukawa S., Sakamaki Y., Nakamura, M. (2009). Biological activity and identification of nucleopolyhedroviruses isolated from *Mythimna separata* and *Spodoptera litura* in Japan. *BioControl* 54, 537-548.
- 坂巻祥孝, 杉谷詩麻, 近藤岳美, 津田勝男 (2011). チャ葉の延命処理によるチャノホソガの室内飼育法. 蝶と蛾 62, 51-55.
- 飛松諒, 坂巻祥孝, 津田勝男 (2012). ウリ科うどんこ病菌及びすす病菌を与えたスワルスキーカブリダニの発育と産卵. 九州病害虫研究会報 58, 53-58.
- 坂元志帆, 坂巻祥孝, 大迫昭平, 津田勝男 (2012). トマトの毛茸およびその滲出物がスワルスキーカブリダニの生存に及ぼす影響. 九州病害虫研究会報 58, 59-65.
- 田中隆昌, 坂巻祥孝, 津田勝男 (2013). チャドクガの死亡要因および蛹捕獲トラップ捕獲効率調査. 鹿児島大学演習林研究報告 40, 1-7.
- El-Nabawy, E.M., Tsuda, K., Sakamaki, Y. (2015). Attractiveness of spiders and insect predators and parasitoids to flowering plants. *Egyptian journal of biological pest control* 25, 245-250.
- 津田勝男 (2014). 鹿児島大学国際協力農業体験講座—東南アジアファームステイ—. *Journal of International Cooperation for Agricultural Development* 13, 92-98.
- El-Nabawy, E.M., Tsuda, K., Sakamaki, Y., Oda, A., Ushijima, Y. (2016). The effect of organic fertilizer and flowering plants on sheet-web and wolf spider populations (Araneae: Lycosidae and Linyphiidae) and its importance for pest control. *Journal of Insect Science* 16, 1-8.
- 樋口聡志, 古家忠, 後藤千枝, 坂巻祥孝, 津田勝男 (2016). Tomato yellow leaf curl virus (TYLCV) を保毒したタバココナジラミ (カメムシ目: コナジラミ科) バイオタイプ Q に対する 2 種薬剤の感染抑制効果. 日本応用動物昆虫学会誌 60, 93-96.

- 樋口聡志, 行徳裕, 飯田博之, 津田勝男 (2017). 熊本県でのタバココナジラミバイオタイプ Q (カメムシ目: コナジラミ科) の野外越冬の可能性. 日本応用動物昆虫学会誌 61, 1-8.
- 津田勝男, 坂巻祥孝, 鹿子木聡 (2017). 少量農薬散布装置による茶栽培の農薬散布労力軽減. 農作業研究 52(別号 2), 11-15.
- Kakoki, S., Kamimuro, T., Tsuda, K., Sakamaki, Y. (2018). Use of a lower-volume, surface pesticide spray conserves spider assemblages in a tea field. *Journal of Economic Entomology* 111, 1595-1604.
- 坂巻祥孝, 三宅正隆, 津田勝男 (2018). 喜界島産ゴマダラカミキリ類核 DNA に見られた遺伝子汚染. 南太平洋調査研究報告 No.59, 19-20.
- Oku, J., Sakamaki Y., Sameshima, S., Tsuda, K., Terada, T. (2018). Records of Gelechioid moths from Amami-Oshima Island. *Lepidoptera Science* 69, 19-32.
- Kakoki, S., Kamimuro, T., Tsuda, K., Sakamaki, Y. (2019). Effect of partial pesticide spraying on the number of major pests and damage to new shoots of tea plants. *Journal of Asia-Pacific Entomology* 22, 826-837.
- Kakoki, S., Kamimuro, T., Ushijima, Y., Inokuchi, M., Tsuda, K., Sakamaki, Y. (2019). The response of three species of phytoseiid mite (Acari: Phytoseiidae) to synthetic pyrethroid pesticides in the laboratory and the field. *Experimental and Applied Acarology* 77, 27-41.

【著書】

- 津田勝男 (2017). 南西諸島のゴマダラカミキリ類と農業被害. 鹿児島大学生物多様性研究会編 奄美群島の外来生物 生態系・健康・農林水産業への脅威. pp. 18-35, 南方新社, 鹿児島.
- 津田勝男 (2022). 鹿児島大学島嶼研ブックレット No.19 島ミカンを救え—喜界島ゴマダラカミキリ撲滅大作戦—. 51 p., 北斗書房, 京都.

【総説】

- 上和田秀美, 津田勝男 (2001). 人工飼料によるコブノメイガの大量飼育法. *植物防疫* 55, 558-559.
- 津田勝男, 坂巻祥孝 (2017). 喜界島におけるゴマダラカミキリ類の昆虫病原糸状菌製剤 “バイオリサ・カミキリ” による防除. *植物防疫* 71, 590-594.

【特許】

- JP7134628A: チャバネアオカメムシの誘引剤. 発行日 1995.4.25. 発明者: 杉江元, 野口浩, 川崎健次郎, 高木一夫, 守屋成一, 藤家梓, 福田寛, 大平喜男, 津田勝男, 山中正博, 堤隆文, 鈴木宏始, 福本毅彦. 特許権者: 農林水産省農業環境技術研究所, 千葉県, 福岡県, 信越化学工業株式会社.